

## E 他出者と出身地域の関わりの拡大(2020～2021年)

企画情報部 地域研究科  
主任研究員 東 良太

## ◇概要

中山間地域では、少子化、高齢化、過疎化による人口減少が加速するとともに、活動の担い手が減少しています。そして新たな担い手の創出が大きな課題となっています。近年は「関係人口」という地域外から地域を支援する存在に注目が集まっています。本研究では、このような概念を整理するとともに、関係人口の中でも、地域との関わりが深い他出者(出身者)に着目するとともに、他の関係人口も含めた連携・協働、関わりの拡大について研究を行います。新型コロナウイルス感染拡大によって出身地や都市と農村の関係が変化を余儀なくされる中、住民の暮らしの視点からの分析を実施します。

## ◇課題と研究の目的

本研究で着目する他出者は、関係人口の一部と捉えることができ、出身世帯への生活サポートや地域活動への参加など幅広い役割を担っています。今後のU・Iターンの促進や他の関係人口との連携・協働の拡大にも可能性を持った存在です。しかし、自治体では他出者や関係人口の把握は難しく、その実態把握、それらの果たしている機能や役割、住民や地域活動との関係は捉えきれいていません。加えて、新型コロナウイルス感染拡大が地域との関わり方にも大きな影響を与えていると考えられます。

以上を踏まえ、本研究では、①関係人口の整理、②他出者の把握および追跡調査の実施、③他出者と協働した地域づくり支援手法の開発を通して、関わりを拡大させる促進策を整理します。

## ◇研究の方法

研究項目		目指す到達点
① 関係人口の整理	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 関係人口についての議論や概念の整理</li> <li>■ 関係人口の特徴把握と他出者との関係性の整理</li> </ul>
② 他出者の把握および追跡調査の実施	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 他出者と家族や出身地域との関わり方の実態の把握</li> <li>■ 他出者が家族や出身地域と関わる際の障壁の把握</li> </ul>
③ 他出者と協働した地域づくりの実証実験	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 他出者の関係性や距離に応じた関わり方の整理</li> <li>■ 他出者と協働した地域づくり支援手法の開発、 関わりを拡大させる促進策の整理</li> <li>■ 他出者を補完する地域内の支え合いの仕組みづくり検討</li> </ul>

## ① 関係人口の整理

- ・各分野で使用されている関係人口の議論・概念を整理
- ・関係人口の特徴把握および関係人口と他出者との関係性整理
- ・上記を通じて、他出者の持つ役割と影響力の把握(人間関係の仲介や所有権等)

## ② 他出者の把握および追跡調査の実施

- ・第5期研究調査地区の設定(T型集落点検の実施)および実態把握
- ・他出者と家族や出身地域との関わり方の実態の把握(T型集落点検およびヒアリング調査)

## ③ 他出者と協働した地域づくりの実証実験

- ・他出者と出身地域との関係性や距離に応じた関わり方の整理
- ・他出者と協働した地域づくりの支援手法の開発(調査地区での計画と実践)
- ・他出者との関わりを拡大させる促進策(行政施策への落とし込み)
- ・コロナ禍で困難化した他出者を補完する地域内の支え合いの仕組みづくり検討(★追加考察)

# 研究の成果

- ・ 関係人口・他出者を把握するための調査手法の開発(ふるさとアンケート調査)
- ・ 飯南町・奥出雲町・日野町において関係人口に関する調査実施
- ・ 他出者の分布状況および来訪頻度・支援内容等の見える化
- ・ 他出者が抱くふるさとの印象および関わりへの拡大への要望等の見える化
- ・ 他出者以外も含めた関係人口の空間的把握および関わりしろの見える化
- ・ 地域課題の他出者への発信および課題解決へ向けた他出者の参画(R1年度実施)
- ・ 災害時を想定した支え合いの仕組みづくり構築へ向けた研修会の実施(累計32回延べ約600名対象)

	飯南町調査	奥出雲町調査	日野町調査
調査目的	実家や出身地域・それぞれの町との関わり方(現状)、コロナ禍による生活変化、興味・関心のある事柄から、今後の関わりを拡大させるとともに、関係人口化していくための関わりしろ・対応方策を明らかにする。(共通)		
調査方法	ふるさと宅配便の発送時にアンケート調査票を同梱(電子併用)	ふるさと宅配便の発送時にアンケート調査票を同梱(電子併用)	毎月の定期便にアンケート調査票を同封(電子併用)
調査対象	飯南町住民からの発送先(親族・知人・友人等の関係人口)	奥出雲町住民からの発送先(親族・知人・友人等の関係人口)	日野町ふるさと住民票の登録者419名(令和3年4月時点)
配布数	約2,000世帯×3枚 最大6,000通	約4,800世帯×5枚 最大24,000通	419通
回収数	580通(配布ベース約22.6%) 10月末 確定	1,344通(配布ベース19.2%) 2月24日末時点	115通(配布ベース27.4%) 10月末時点
調査期間	令和2年2月22日～9月30日(終了)	令和2年8月1日 ～令和3年1月31日(実施中)	令和3年8月30日～9月30日(終了)
調査項目	①出身者 27問 コロナ禍による生活変化、各町で暮らす実家、実家の家業や所有、実家への関わり、実家からの関わり、コロナ禍による実家との関係に与えた影響、実家以外での連絡有無、ここ5年以内での拡張との関わり、各町を離れた年齢と理由、ふるさとという言葉の範囲、他出時の帰郷意向、離れた際と現在を比較したイメージの変化、Uターンの検討状況、各町の生活で気がかりなこと、Uターン移住に限らずに離れていても重要だと思ふこと等  ②非出身者 12問 コロナ禍による生活変化、各町への訪問頻度、来訪時のアクティビティ、各町との関わりを深める上で、興味・関心のある事柄等		①出身者(124名)16問 コロナ禍による生活変化、実家との関わり、貢献できること、自慢したい日野町等 ②福寄せ離会員(192名)13問 コロナ禍による生活変化、日野町との関わり、好きな日野町スポット、応援できること等 ③非出身者(103名)13問 コロナ禍による生活変化、日野町との関わり、好きな日野町スポット、応援できること等
今後の展開予定	8月30日中間報告、11月30日最終報告(来年度追加調査を予定)	11月18日中間報告、3月頃最終報告(来年度追加調査を予定)	11月11日中間報告、年内最終報告(来年度追加調査を予定)
実施主体	飯南町・中山間地域研究センター(共同研究契約を締結)	奥出雲町・中山間地域研究センター(共同研究契約を締結)	日野町・中山間地域研究センター(共同研究契約を締結)

図1 ふるさとアンケート調査の概要(令和3年度実施分)

### ふるさと応援宅配便助成制度

離れて暮らす大切な人をこの町から応援したい... そんな皆様を飯南町が支えます!

町民の皆様が送る荷物の送料を助成します。ご利用いただくには...

**STEP1 送りたい荷物を箱に詰める**

【対象の荷物】  
地元の特産品、お米、自家生産された農産物、日用品、など  
※チルド(保冷が必要な荷物)は対象外

【箱のサイズ】  
100サイズ(縦・横・高さの合計が100cm)以下  
のもの

**STEP2 送り状に必要な事項を記入する**  
(宛先・送り先など、登録送る場合と同様に)

【送り状】  
同封の専用送り状をご利用ください。  
1世帯あたり3枚利用可能

**STEP3 箱に封をしないうちに郵便局へ持ち込む**

【対象郵便局】  
赤名、頓原、来島、志々、谷角井簡易郵便局

【対象期間】  
2月22日(月)～9月30日(木)  
※郵便局受付日

【お問合せ先】  
飯南町 まちづくり推進課  
TEL:0854-76-2864  
FAX:0854-76-2221

### ふるさと応援宅配便

飯南町民の皆様へ

**ご利用をお忘れでは  
ありませんか?**

**有効期限は  
令和3年9月30日までです。**

※郵便局受付日

2月に送り状3枚を各戸にお送りしています。町外に住むご家族等へ無料でお荷物をお送りいただくことができますので、是非 ご活用ください。詳細は、裏面をご覧ください。

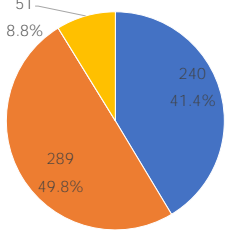
【留意事項】  
○通常便のみご利用できます。保冷が必要なお荷物ではご利用いただけません。  
○送り状を紛失された場合は再発行できませんのでご了承ください。  
※書き損じた場合は郵便局で新しい送り状に交換可能です。

【お問合せ先】  
飯南町まちづくり推進課  
TEL:0854-76-2864  
FAX:0854-76-2221

図2. ふるさとアンケート調査についての案内(飯南町まちづくり推進課)

飯南町ふるさとアンケート調査の結果抜粋（全体回答者580名）

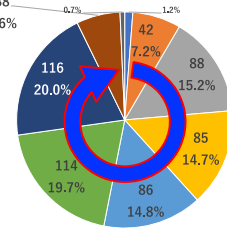
性別



単回答  
n=580

580人が回答・男性よりも女性からの回答がやや多い

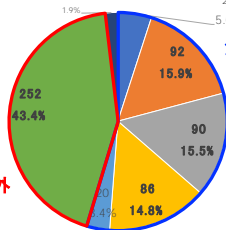
年代



単回答  
n=580

30～70歳代を中心として幅広い年代から回答

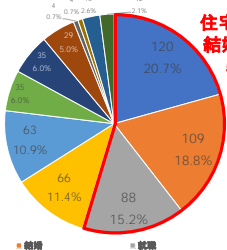
出身地区



単回答  
n=580

返送してくれた人の54.7%は出身者、非出身者から43.4%

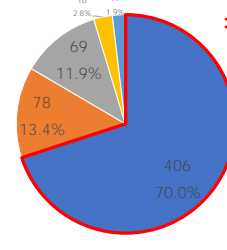
現在の市町村への転居理由



単回答  
n=580

住宅の購入、結婚、就職による転居が約半数を占める

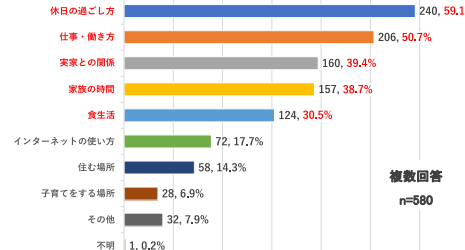
コロナによる考え方や価値観の変化



単回答  
n=580

7割の方がコロナによって考え方・価値観に変化あり

コロナで考え方や価値観が変化した事柄

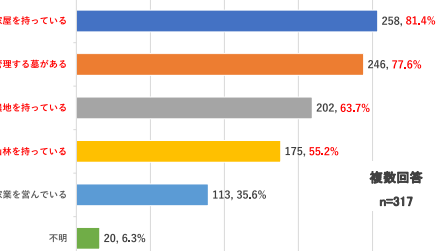


複数回答  
n=580

コロナによって生活・家族・実家との関係性に大きな影響

飯南町ふるさとアンケート調査の結果抜粋（町内出身者317名）

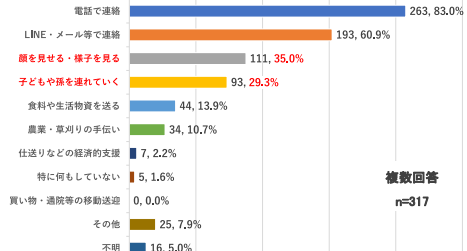
実家の家業・所有



複数回答  
n=317

半数以上の出身者が家屋・墓・農地・山林を所持

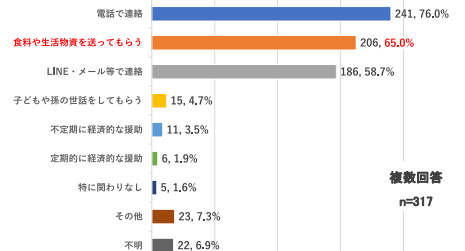
他出者→実家へしていること



複数回答  
n=317

顔を見せる・子や孫を連れていく(しかしコロナの影響)

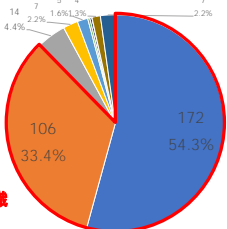
実家→他出者へしてもらっていること



複数回答  
n=317

食料品(お米・野菜)や生活物資の支援が多い

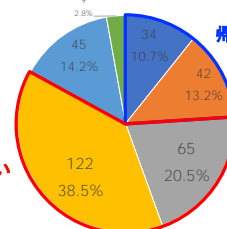
飯南町を離れた理由



単回答  
n=317

進学・就職で大半の出身者が地域を離れている

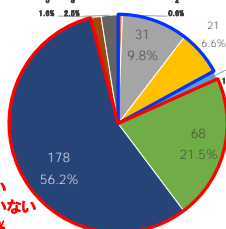
飯南町を離れる際の帰郷意思



単回答  
n=317

全体の約6割がもう帰らない意思で飯南町を離れている

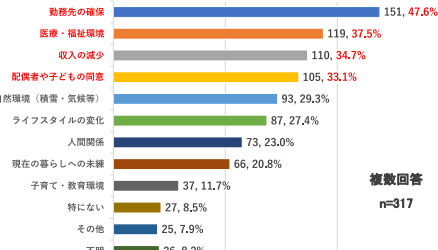
Uターン移住の検討状況



単回答  
n=317

コロナはUターンの促進にはなっておらず、大半は難しい

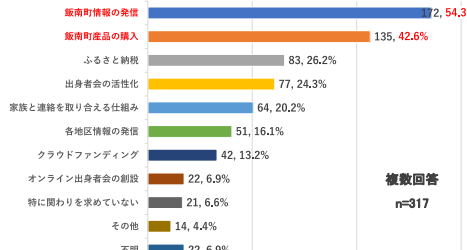
飯南町での生活で気掛かりなこと



複数回答  
n=317

職場・医療・家族の同意についての心配が多い

関わりの維持・拡大に重要と考えること



複数回答  
n=317

情報の定期的な発信と産品が購入できる仕組み

ふるさと調査から見てきたこと

- ① 多くの他出者(関係人口)が存在することがわかったと同時に、さまざまな事情を抱えていて、帰ることができない人が多数存在
- ② 帰ることができない人でも、地域への想いを持っている人が多い 離れていても、繋がりを維持して実家・住民の支えになっている
- ③ すぐのUターンや将来的な移住定住に結びつかなくても、他出者を含めた関係人口との繋がりを維持・拡大する重要性
- ④ これら関係人口と多様な関わり方(0・1でなく)をしていくために自分たちの「やりたいこと」、「助けてほしいこと」等と合わせて、関係人口の意向・求めていることを踏まえることも必要  
(中山間地域研究センターでは、今後より詳細な分析を進め、公開予定)